

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み 情報課広報広聴係

TEL23-3069

真夏のイベント 真夏の元気

(7月9日・7月22日)

7月9日(日)に白樺公園とまちの駅「アウル」を会場にした、当別町商工会主催の2006とうべつSUNキューフェスティバルには2,000名の来場者で盛り上がりました。

町内の商工業者の出店による飲食ブース、こども縁日が並ぶ中、人気の町民フリーマーケットには、掘り出しものを目当てに、開会の後すぐに人だかりが出来ていました。

当別中学校吹奏学部の演奏・YOSAKOIソーランなどが来場者を楽しませ、恒例となっている丸太切り競争、長靴投げ、幼稚園・保育所対抗の綱引き大会などのイベントでは、勝敗が決まる度に、参加者から大きな歓声が上がっていました。



7月22日(土)まちの駅「アウル」で、当別町商工会がキッズフェスティバル第4回野外こども映画まつりを開催。

石狩管内の各商工会が行う催しの、輪投げ、もちつき、わりばし鉄砲づくりなどには長い行列が出来、ピエロのパフォーマンスは親子連れに人気を集めていました。

また、縁日・飲食の販売を体験できる、キッズチャレンジショップでは、はっぴを着た子どもたちが元気にかき氷、やきそば販売の呼び込みをしていました。

特設の大型スクリーンではアニメ映画も上映され、子どもたちを中心に450名の来場者で賑わいました。



守ろう！農村環境

(7月20日)



現在、国から交付されている「水田農業構造改革交付金」は食料生産基盤の安全な農地・水・環境を守るための制度ですが、この交付金の大規模削減の動きがあるため、北海道・当別の農業環境と農業者の生活を守ろうと、農協、土地改良区などの農業関連団体が中心となり、水田農業に関する緊急大会を開催。

会場となったJA北石狩に集まった、農業者を中心とした約250名の参加者は、国に対して、強い姿勢で農村環境を守る農業施策を進めるように求めていくことを確認しました。

当別グリーンライフネットワークがセミナーを開催

(7月23日)



自然の恵み豊かな北の大地を見直し、当別でのまちづくりを考える趣旨で設立された「当別グリーンライフネットワーク」がセミナーを開催。

現在長沼で農家をしている自身体験を基に「自然の恵み、つくるよこび」をテーマに、元北海道副知事の麻田信二さんが講演しました。

この中で、「少子高齢化を迎えるこれからの時代は、年をとっても安心して暮らせる社会づくりが必要であり、いかにして地域が自立していくかが大切である」とメッセージが送られました。

みんなで踊ると楽しい 七夕まつり

(7月7日)



今年の春に鉄北幼稚園と統合した当別幼稚園で七夕まつりが開催されました。

園児たちは、この日のために組まれたやぐらと願い事を書いた短冊で飾り付けをした柳の木を囲んで、練習を重ねてきた「子供盆踊り」と「くまちゃん音頭」をみんなで楽しく踊りました。

最後には、園児のお父さんたちが協力して何発ものカラフルな花火を打ち上げ、見学している園児たちが歓声を上げていました。

本庄陸男を称えて文学碑石狩川献花式

(7月21日)



町観光協会が、当別ゆかりの作家本庄陸男の偉業を称えたビトエの文学碑の前で献花式を挙行了しました。

石狩川の堤防の上にそびえたつ「文学碑石狩川」を前に、重原観光協会長が「本庄陸男が石狩川で書いた当別開拓の歴史をこれからも大切に受け継いでいきます」と挨拶し、献花を行いました。

式の後には、当別音頭を守る会のメンバーが「当別音頭」とめでたい席で踊られたという「さんさ時雨」を披露し、故人本庄陸男をしのびました。